

院内感染防止対策に関する取組事項

1. 感染制御チーム(以下、ICT)の設置

感染対策に関する専門的な知識を持った医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師を主とするメンバーで構成

2. 教育、研修

- 1) 2回/年、全職員を対象とした研修会を実施する。また必要に応じて臨時の研修会を実施する。
- 2) 研修内容は、全職員を対象とした内容を検討し、全職員が参加できるように複数回実施する。
- 3) 研修会の実施内容(開催日時・出席者・研修項目)または外部研修の参加実績を記録・保存する。
- 4) 感染に関わるニュースやトピックスまたは感染発生状況は、委員会等で発信する。

3. 感染対策相談(コンサルテーション)

- 1) 感染に関わる相談を職種問わず受ける。
- 2) 相談件数・内容を集計、傾向を分析し、今後の感染管理活動に役立てる。

4. 発生動向監視(サーベイランス)

- 1) 臨床検査室からの耐性菌・インフルエンザ等の結果報告を迅速に受け、アウトブレイクを早期に察知する。
- 2) 週報により部署別の MRSA 等の検出状況を把握する。
- 3) ハイリスク・ハイボリュームな手技のものからサーベイランスの項目を選出し、実施する。
- 4) サーベイランスの結果は関連する部署、委員にフィードバックし情報共有する。
- 5) 地域や全国のサーベイランス(Japan Nosocomial Infections Surveillance :JANIS)へ参加し当院の院内感染防止機能を相対的に評価する。

5. 院内感染対策マニュアルの作成、改訂、遵守状況の把握

- 1) 最新知見やエビデンスに沿って、標準予防策、感染経路別予防策、職業感染予防策、疾患別感染対策、洗浄・消毒・滅菌、抗菌薬適正使用等の内容を盛り込んだ院内感染対策マニュアルを作成する。また院内感染対策マニュアルは各部署に配布する。
- 2) 感染に関わる国内外の各種ガイドラインに変更があった場合や院内での対策変更があった場合は、その都度マニュアルの改訂を行う。
- 3) 院内各部署と協力し感染対策や感染防止に関するマニュアルを作成する。
- 4) 定期的にマニュアルを見直し、必要時改訂する。
- 5) 職員が院内感染対策マニュアルを遵守していることを定期的に調査して確認する。

6. 院内ラウンドの実施

- 1) 2職種以上の ICT メンバーで 1 週間に 1 回程度院内ラウンドを行う。基本的に毎週木曜日 15 時 30 分から行う。設定した日時で実施できない場合は別日を設定して実施する。
- 2) 病棟ラウンドに当たっては、臨床検査室からの報告等を活用して感染症患者の発生状況等の把握を行うとともに、院内感染対策の実施状況の把握・指導を行う。
- 3) ラウンド、院内感染に関する情報を記録に残す。

- 4) 月1回、感染対策委員を含むICTメンバーの各部門の代表者にてチームを構成し、院内全体のラウンドを行う。
このラウンドは、感染管理に関する視点を学び自部署で活かすことを目的とする。

7. 地域連携

- 1) 保健所及び地域の医師会と連携し、感染対策向上加算2または3に係る届出を行った保険医療機関と合同で年4回程度、定期的に院内感染対策に関するカンファレンスを行い、その内容を記録する。
このうち1回は新興感染症等の発生等を想定した訓練を実施する。
- 2) 感染対策向上加算2、3及び外来感染対策向上加算に係る届出を行った他の保険医機関に対し、必要時に院内感染対策に関する助言を行う。
- 3) 緊急時に地域の医療機関同士が速やかに連携して各医療機関の対応への支援ができるよう、日常的な相互の協力関係を築く。
- 4) 介護保険施設等から求めがあった場合、当該施設等に赴いての現地指導等、感染対策に関する助言、研修を行う。

8. 抗菌薬適正使用の推進

- 1) 耐性菌の分離率を減少させるため、抗菌薬適正使用法をマニュアル等で職員に周知する。
- 2) 微生物検査結果を確認し、広域抗菌薬の使用状況について確認する。
- 3) 広域抗菌薬等の使用に際して届出制をとり、投与量、投与時間の把握を行い、臨床上問題になると判断した場合には、投与法の適正化を図る。
- 4) 地域の医療機関より相談等を受け、助言等を行う。

9. 改善への介入

- 1) 週報により部署別のMRSA等の検出状況を把握し、通常より多い場合その部署に赴き、アウトブレイクを視野に入れ対策の確認を行う。
- 2) アウトブレイクあるいは異常発生時および発生が疑われた時は、その状況、対応等を直ちに病院長へ報告する。
- 3) 異常な感染症が発生した場合は、速やかに発生の原因を究明し、改善策を立案し、実施するために全職員への周知徹底を図る。

10. 職業感染対策

- 1) インフルエンザ、B型肝炎などのワクチン接種プログラムを立案し実施する。
- 2) 血液体液曝露サーベイランスを行い、曝露状況を分析し防止策を立案・実施する。

11. 環境衛生、器具導入、病院建築などの問題を検討

- 1) 単回使用機材の適正化を管理する。
- 2) 費用対効果の高い医療材料や器具の選定に関わる。

12. その他院内感染の発生防止に関する活動を行う